

平成25年度

施策評価マネジメントシート(平成24年度の実績評価)

記入年月日  
平成 25 年 6 月 19 日

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	生活安全課	主管課長名	大関 輝夫
403	施策名	交通安全対策の推進	関係課	建設課、学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	・市民、市内の道路利用者(車両運転者・歩行者) ・市内道路	①桜川市人口	見込値	人				45,122	44,571	44,020	43,469	42,920
実績値			46,575		45,673	45,105	44,449					
②市内道路延長(国道、県道、市道)		見込値	km				1,627	1,634	1,635	1,636	1,637	1,638
		実績値		1,627	1,627	1,626	1,626					
見込値												
	実績値											
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	交通事故にあわない、起こさない	①市内の交通事故発生件数(人身)	目標値	件				178	169	160	152	145
実績値			197		187	148	150					
②市内の交通事故死亡者数		目標値	人				0	0	0	0	0	0
		実績値		1	7	1	4					
③市内の交通事故負傷者数		目標値	人				235	223	212	201	191	182
		実績値		266	247	202	198					
目標値												
実績値												
成果指標設定の考え方	○交通事故に遭わず、起きなければ、①交通事故発生件数、②③交通事故による死傷者数は減少すると考えた。											
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○市内の交通事故件数等は桜川警察署資料から											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○事故にあわない、起こさないために、交通ルールを守る。(運転者及び歩行者等) ○地域の自主的な取り組みにより、交通安全意識を高める。 ○酒を飲んだら絶対に車に乗らない。酒を飲んだら乗らせないと徹底する。 ○交通安全母の会、交通安全協会、安全運転管理者協議会等、各種団体において交通安全運動を推進する。	○交通安全施設の整備を図るとともに、警察署や学校、地域の関係団体と連携し、市民の交通安全意識の高揚に努める。 ○交通安全施設(信号機、横断歩道、カーブミラー、ガードレール)の設置要望や整備を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○通学中の小学生に対する重大事故により道路整備が懸案事項となっている。通学路整備に対する調査。ガードレールや縁石の設置により、歩道・車道の分離が求められている。 ○13歳未満の子どもと70歳以上のおとしよりの自転車走行については歩道を通ることができる。	○歩道の設置について、市民(青少年育成桜川市民会議)から要望があった。 ○警察からは小中学生の自転車乗車時のヘルメット着用を要請されている。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①交通安全意識の向上	市民、市内の道路利用者	交通事故にあわない、起こさない	事故発生件数(人身)	実績値	187	148	150				
			事故発生件数(物損)	件							
②交通安全施設等の整備	市内の道路	危険箇所を解消する	整備箇所数	実績値	79	111	117				
				件							
				実績値							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	9	9	9
②施策事業費(一般財源以外)	千円	5,099	0	0
③施策事業費(一般財源)	千円	5,585	10,894	5,260
④施策事業費の計(②+③)	千円	10,684	10,894	5,260
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	12,030	9,251	7,509
⑥計(④+⑤)	千円	22,714	20,145	12,769

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
事務事業	交通安全啓発事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	交通安全指導事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	交通安全施設整備事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	市交通対策協議会運営事業	H24年度貢献度評価上位

施策番号	403	施策名	交通安全対策の推進	主管課	生活安全課
------	-----	-----	-----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・市内の交通事故(人身事故)発生件数は、21年度197件から減少傾向であるが、23年度148件から見ると24年度は150件と横ばいであり、目標値を大きく下回り達成している。ただし、高齢者の関係する交通事故は55件発生しており、3件に1件は高齢者が関係する交通事故が発生している状況である。</p> <p>・交通事故負傷者数は、21年度266人から24年度は198人と減少しているが、23年度202件から見ると横ばいであり、目標値を大きく下回っている。</p> <p>・死亡件数は、24年度で4件発生し、うち高齢者の死亡事故は3件である。23年度は1件で3件増えた。</p> <p>・市としては交通安全施設の整備や交通安全教室等を開催している。警察署では取り締まりの強化、交通安全団体では交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識啓発事業に取り組んでいるが、高齢者の事故防止が大きな課題である。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①市内の交通事故(人身事故)発生件数は、24年度目標169件に対し、150件と目標値を大きく下回り達成している。</p> <p>②市内の交通事故死者数は、24年度目標0に対し4人(そのうち高齢者が3人)であり、23年度より3人増えた。発生場所は国道50号とその周辺で3件、県道で1件であり、そのうち高齢者の交通事故死者数は3人である。</p> <p>③市内の交通事故負傷者数は、24年度目標値223人に対し、198人であった。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・人口1万人当たりの交通事故発生件数は、桜川市33.26件(県内8位)であり、筑西市は40.96件、笠間市が42.86件となっており、国道50号で結ばれる近隣市の中で、桜川市だけで良い数値を表している。しかし、交通死傷者数(1万人当たり)は、桜川市は0.89人(県内37位)であり、筑西市は0.65人、笠間市は0.51人となっている。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・桜川市の現状として、JR水戸線およびタクシー・デマンドタクシー以外の公共交通機関がないため、自家用車を使用しなければ生活が成り立たないというライフスタイルから、市民の交通安全対策に対する期待水準は高いと思われる。</p> <p>・総合計画(後期)策定時におけるアンケート調査(23年3月)から、この施策は優先度も満足度も平均より高く、重点維持項目にある。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・24年度は、「歩行者」、「市内道路」を重点対象に、「交通安全意識を啓発する」、「危険箇所を解消する」を重点意図として事務事業を行った。</p> <p>貢献度評価から今年度貢献した事務事業は、「交通安全指導事業」、「交通安全啓発事業」、「交通安全施設整備事業」、「市交通対策協議会運営事業」であった。</p> <p>・「交通安全指導事業」は、交通安全教室を内の小中学校16校、保育所・幼稚園10施設、高校1校、そして高齢者向けに3地区で交通安全教室を実施したほか、高齢者向けの交通安全教室として、『高齢者交通安全輪投げ大会』及び『高齢者交通安全グランドゴルフ大会』なども開催した。</p> <p>・「交通安全啓発事業」は、交通安全出陣式を始めとして、春、夏、秋、年末各季の交通安全運動期間時に、市交通対策協議会構成団体である交通安全協会役員、交通安全母の会役員、安全運転管理者協議会役員が市内交通要所で街頭キャンペーンを行った。また、期間中市内交差点数カ所において、民間交通指導員による街頭立哨を実施、その際に反射材の啓発活動も併せて行った。年間を通して防災無線・交通指導車を使用した広報活動を行った。</p> <p>・「交通安全施設整備事業」は、交通事故の防止、抑制のため、交通事故が多い場所や危険箇所に交通安全施設を設置した。また交通安全施設で壊れた箇所の修繕を行った。カーブミラー、ガードレール、交通標識、区画線、街路灯などの設置修繕に取り組むほか、カーブミラーの角度調整などを重点的に実施した。</p> <p>・「市交通対策協議会運営事業」は、関係機関団体と緊密な連絡をとり、交通安全指導事業・交通安全啓発事業等の計画・推進を図った。また、交通安全関係団体への助成・提案を行い、交通安全協会参画事業、交通安全母の会運営事業、安全運転管理者協議会運営事業を効果的に推進した。24年度は、特に反射材着用促進を重点的に実施した。(高齢者対策事業での反射材着用促進、街頭キャンペーンでの配布、市民祭ではカカト用へ反射材を貼付や民間交通指導員による薄暮時の立哨での反射材配布など)</p> <p>・その他の事務事業として、自転車二輪自動車商協同組合の協力を得て、自転車通学をしている小・中学生の自転車1,317台の点検を行っている。また交通安全大会を開催し、交通安全ポスター表彰や関係交通団体の表彰を行いアトラクション(H24茨城県警察音楽隊)を実施した。また高齢者の交通死亡事故が多発したため緊急対策会議を開催、小・中学生の交通事故多発により緊急対策会議(2回)を開催し、関係機関との連絡調整及び指導(中学生ヘルメット着用)、改善(立木伐採、歩道拡幅等)を行った。</p>
-------------	---

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	<p>・高齢者の交通事故が増えていることから、高齢者の交通事故対策として高齢者交通安全教室の充実を図る必要がある。</p> <p>・道路整備に伴うスピード超過による無謀運転への対策や携帯電話の使用による漫然運転を防止する必要がある。</p>	<p>・交通事故から市民の尊い命を守るため、交通安全施設の整備や安全な道路環境の形成に努めるほか、市民一人ひとりの交通安全に対する意識の啓発に努めます。</p> <p>・高齢者をはじめ、各世代における各種交通安全教室の充実を図ります。</p> <p>・警察署や交通安全団体と連携し、交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識啓発に取り組みます。</p> <p>・通学路における危険箇所の把握とともに、重大事故を未然に防ぐための危険箇所の解消や交通安全施設の整備を図ります。</p>
基本事業	①交通安全意識の向上	<p>・交通事故防止のため広報活動や街頭キャンペーンを実施して交通ルール・マナーの向上など交通安全の意識啓発を行っていきます。</p> <p>・子どもや高齢者の交通安全知識の向上のため、交通安全教室なども実施していきます。</p> <p>・高齢者の運転免許自主返納に対して支援を行います。</p>
	②交通安全施設等の整備	<p>・通学路における危険箇所の把握とともに、重大事故を未然に防ぐための交通安全施設の整備が求められている。</p> <p>交通安全施設や車道・歩道を整備し道路の危険箇所を解消するとともに、施設の保守点検に努め交通事故防止を図ります。</p>